

学校法人東放学園  
東放学園専門学校 殿

## 2020年度 学校関係者評価報告書

東放学園専門学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価委員

#### 【学校運営に関する有識者】

岸田 真 桜美林大学 芸術文化学群 教授（委員長）

#### 【就職先企業及び業界関係者】

末岡 俊一 株式会社 ザ・ワークス（制作系）

小川 尚人 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会（映像・音響系）

深井 一彦 株式会社 パシフィックアートセンター（美術・照明系）

#### 【高等学校教職員】

田口 裕基 日本大学鶴ヶ丘高校教諭

#### 【卒業生保護者】

小川 明美

#### 【卒業生】

小河原 義一 元(株)TBS テックス、TOHO 会名誉会長

#### 【東放学園専門学校】

加藤 諭 校長

堀内 和人 副校長・教務教育部長

亀山 治 学務管理部 部長

浜野 龍也 学校関係者評価委員・事務局（学務管理部 進路主任）

### 2. 学校関係者評価委員会の開催情報

2020年11月～2021年1月 メールでのやり取りにて開催

### 3. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

## ※別紙

### 4. 学校関係者評価結果

#### 評定内容

- 4：適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2：対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1：全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

## I. 重点目標について

### 重点目標 1 中途退学者及び退学率の低減

#### コメント

- ・ただでさえ曖昧な目標で入学してくる者が少なくないなかで、コロナ禍という状況もあり、1年生のDO率の微増はやむを得ないことと思われる。従来からのクラスアドバイザー制度に加え、24時間電話相談などメンタル面への対応、Hyper-QUの導入など、力を入れて努力していることがうかがわれる。
- ・授業内容の変更やカリキュラムのリニューアルなど、教育課程編成委員会からの意見や提言などに耳を傾け、魅力ある授業やカリキュラムを目指し、低減に繋げるべく検討や行動で施策を講じている。
- ・減少傾向なのはいい事だと思います。ただし退学の理由が経済的な事なのか、あるいは人間関係なのか把握しなくてはいけないと思います。
- ・課題に対しては十分な努力をされていることは理解できます。コロナ禍において、大学ではオンライン授業が標準となり、これは今後も大きく変わることはないことが予想されます。そんな中、貴学のように実技系のクラスが多い学校では対面授業の割合が高くなると思います。コロナ禍前には見られなかったこの特徴が課題達成のカギの一つになるかと思われます。
- ・24時間対応の相談ダイヤル、カウンセリングルーム（専任カウンセラーが対応）の設置、保護者会の実施、教職員による個人面談の強化など、退学者低減に向け多くの対策に取り組んでいる。その結果、退学率が目標内であることは評価できる。
- ・学生たちの状態把握をアンケートを通して調査し、そこからモチベーションの状態を読み取る事は非常に良いと思う。保護者との連携を強め、モチベーションアップさせる対策に重点を置いてほしい。もちろん調査に基づいたカウンセラーの取り組みや、アドバイザーによる面談の実施など、学生と向き合った対策は評価できる。
- ・課題に対しては、各学科別の分析も行われており適切な取り組み姿勢は評価できる。退学については、各個人の事情もあり致し方ない要素も多く一定数はやむを得ないところだと思う。保護者を交えた面談やカウンセリングの他に進路指導なども含め指導側の姿勢も前向きであり目標への努力が伺える。

#### 評定

4

## 重点目標 2 就職率の向上

コメント	評定
<p>・在籍者割合は目標に到達しなかったとはいえ、就職率自体の目標を達成できたことは充分評価できる。学内企業説明会やキャリアサポートセンター主催のゼミの実施など、在校生へのサポートも手厚い。卒業生の離職率は問題かもしれないが、それは卒業後のことであろう。在学中に就職への意識を高めることが肝要である。</p> <p>・キャリアサポートセンターが掲げている就職内定率90%を概ねクリアしている。学園内の英知を結集し、多様化する情報の収集など、弛まぬ努力によって就職率の安定に繋げている。</p> <p>・就職率に関しては就職セミナーや企業説明会などを実施しているので学生たちも就職について興味を持つと思います。</p> <p>・安定した高水準での就職率を維持できていると考える。コロナ禍での内定取り消しや就職後の扱いなど、心配はつきないが今後も学生各自が自分の就職先について主体的に考える仕掛けを工夫していくことが重要である。</p> <p>・キャリアサポートセンター、就職担当と多方面から学生の就職支援を行っている。また、就職講座、ビジネスマナー講座、面接対策セミナーなどの実施が、就職率の向上に繋がっていると思う。</p> <p>・目標の達成は素晴らしい事、その為の企業説明会、進路への相談、24時間の電話相談対応などの支援も着実に実行されている。</p> <p>・学内の就職担当とキャリアサポートセンターとの連携がしっかりとれており学生の就職意識の向上に向けて様々な取り組みを早い時期から行っている点は高く評価できる。その結果が就職率の数字に表れていると考えられる。</p>	<h1>4</h1>

### 重点目標 3 ICT を活用した新たな教育方法の開発及び業務の効率化を検討

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により e ラーニングの利用は飛躍的に伸びたことと思われる。スマホは現代の必需品であり、誰もが在宅で授業を受けることが可能になった。また出席や成績管理もアナログ時代からと比較すると大きく変化した。しかしツールがどう進化しようと、教育現場において大事なものは、コンテンツである。教員の一層の努力を期待する。</li> <li>・学園総合情報システム「キャンパスプラン」なるものによる Web 出欠登録、教職員による Web 成績登録、保護者用の Web サービス「アンシサイト」の運用などの導入で業務の効率化を図っている。</li> <li>・「キャンパスプラン」の導入により効率化されていると思います。今後はリモートによる授業など更なる発展を期待します。</li> <li>・高校も本年度は昨年 4 月以降、教育スタイルが 5 年以上一気に進んだ感がある。ICT の運用に慣れた学生が今後、ますます多く、貴学にも入学していくので、それを前提に課題の達成に向けてなお一層の努力を重ねられることを期待したい。</li> <li>・時代の変化に伴った ICT の有効活用が必要な中、今年度から「キャンパスプラン」を導入し、業務の効率化が推奨されてきたと思う。今後も有効に活用できるように継続していただきたい。</li> <li>・計画していた「キャンパスプラン」の結果がよくわからない。e-ラーニングコンテンツの制作、公開は素晴らしい。但し、業務の効率化など結果を定量化した見える形に出来ると更に良いと思います。</li> <li>・ICT の導入計画が進んでいる点は評価できる。出席状況を効率的に把握できることで教職員の負担が改善され、その分学生に注力できるようになることが望ましい。まだまだ改善の余地もあると思われるので、現状把握と分析を通じてより良いシステムになるよう改善点を重ねて学内にマッチしたふさわしいシステムの導入を目指していただきたい。</li> </ul>	<h1>3</h1>

## Ⅱ. 評価項目別取組状況について

### 基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評価
<p>・基本理念に基づきエンターテインメント業界への人材を育成するという理念は、単なる空論ではなく、実績を伴っており、今後も継承していくべきものだと思う。特に挨拶の重要性は繰り返し伝えてほしい。</p> <p>・理念や育成人材像が明確になっており、理念体系・目的・教育方針は、様々な告知形態で教職員や学生に周知されている。また、関連業界の企業や保護者にも公表されており、変化の激しいマスメディア業界や一般社会でも生き抜いて行ける人材育成を目指していることが窺える。</p> <p>・挨拶がきちんとしている。エンターテインメントの人材を育てる学校ではあるけど、一社会人として通用する人材を育ててほしいと思います。</p> <p>・理念や目的は誰にでもわかりやすいので、共有しやすいと考えます。「TOHOメソッド」については高校としても非常に進路指導上、こういうものがあると導く上で有効です。</p> <p>・理念・目的などは適切であり、「学生ガイド」にも教育方針として解りやすく書かれ、学生にも徹底されていると思う。特に挨拶は実践されていると思う。</p> <p>・三本柱からなる教育理念にぶれは感じない。毎年変わる各々の業界トレンドに対しても、講師の多くが業界関係者としており、時代にマッチした活動を行っている。「TOHOメソッド」など御校独自のシステムもしっかりしていると思う。</p> <p>・基本理念であるが「基本理念」に基づいた「使命」「行動指針」については十分評価できると感じる。理念などは、年中目にするものではないが目指す方向性を指し示すものであります。学生・教職員すべての学校関係者に基本理念の「己と和と成長」そして TOHOメソッドが浸透することを期待します。</p>	<h1>4</h1>

## 基準 2 学校運営

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に問題はない。昨年から始めている五カ年事業も、まだ成果が出るまでには至っていないであろう。校長も変わり、人員構成も変わった。こうした新陳代謝を行いながら、健全に運営されることを望む。</li> <li>・中期的構想に基づいた単年度や 5 年事業計画を、理事会・評議員会のご意見を仰ぎながら、特色を生かしつつ、時代の流れに沿った運営方法を模索している。</li> <li>・事業計画に基づき問題なく運営されていると思います。少子化問題のあるのにそれなりに入学者数がある点は評価できると思います。</li> <li>・理念や目的というのはそれを作った時のスタッフでは共有できても、新陳代謝で人の入れ替わりが進んでいくと、いつのまにか勝手な解釈をするようになりがちである。継承していくことが重要であるが、同時にその時代に合わせて手直ししなければいけない部分も出てくるので、そのあたりのバランス感覚が重要だと考える。</li> <li>・事業計画が適正に立てられ、遂行されていると思う。教員の「働き方改革」にも取り組んでいるように思う。今後は避けられない少子化問題にむけ、さまざまな取り組みを続けていただきたい。</li> <li>・5 年事業計画をベースに教員たちへの臨機応変な姿勢の教育取り組みは良い。目標設定に対する経過確認も職員会議、運営会議で行われているようで、単なる計画だけでない姿勢はうかがえる。気になるのは滞っている計画に対する見直しがどのように為されているか、進捗の管理内に組み込めると良いと思う。また、急速に進む IT 化に対する対応も設備投資や指導方法など今後の課題ではないでしょうか。</li> <li>・運営方針に基づき今後 5 年の事業計画を策定し具体的な施策に乗り出している。これまでの課題であった教職員の働き方改革についてもかなり対策が進んでいることはとても評価できる。</li> </ul>	<h1>3</h1>

### 基準3 教育活動

コメント	評定
<p>・教育機関において教育活動は最重要事項である。スクラップ・アンド・ビルドを繰り返しながら、より良いカリキュラムで運営していくことが理想であるが、なかなか現実には難しい。特に優秀な人材（教員）の確保は容易ではない。教員と生徒の関係も人間関係のひとつだから、これも良好な状態を継続するのは難しい。その点、貴校は人脈をいかし、うまくいっているように思われる。</p> <p>・一旦足踏み状態となっている放送業界で若者のテレビ離れが加速している中で、メディアの復活を担う人材を育成すべく方策の一つとして、資格や免許取得を充実させている。また、関連業界からの情報収集に努め、これからの時代に合った人材の獲得や育成と教育内容を充実させてほしい。</p> <p>・エンターテインメントの業界の人材を育成する学校としてたくさんのカリキュラムがあると思います。一般的な教養や専門的な知識を習得できるようにしてほしいと思います。</p> <p>・高校の現場でもインプット型からアウトプット型への授業の転換が求められていますが、できているかという現実的にはまだまだかと思っています。貴学でも外部での発表を促してその成果も把握しているということですが、さらにアウトプットさせる機会を確保することが課題と考えます。</p> <p>・アクティブラーニングを導入するなど、時代に合った授業の進め方を工夫されていると思う。また、業界・企業の方々とのパイプを活かし、各業種の現状を知る事が出来る授業展開を行っている事は素晴らしいと思う。今後は社会人としてのコミュニケーション能力向上の強化が望まれる。</p> <p>・目標設定に沿って課題を抽出し取り組まれている。独自の学内技能検定の実施、教育課程編成委員会を設置し、卒業生や関連企業から得た業界のニーズを反映した授業改善に取り組むなど評価できる。指導する教員の資質向上も、関連企業への研修や、授業評価アンケートを実施し、改善点などのフィードバックを行っていることは評価したい。</p> <p>・教育課程の編成は、理念体系や教育方針を踏まえて実施されている。放送・エンターテインメント業界においては、資格や免許の取得が必須の業界ではないものの加盟団体が主催する専門分野での資格や検定を推奨しており、対策講座の実施や支援体制も整えている。近年、高所作業に関わる安全教育なども必須となっており新しい課題に対しても積極的に対策を講じている点は高く評価できる。</p>	<h1>3</h1>

## 基準 4 学修成果

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことの結果として、就職がある。それは単に数字だけの問題ではなく、個人の希望ということも大きい。離職率も少なくないと聞くが、それは所属機関を変更するということであって、別の業種に行く者は少ないだろう。この点も貴校で学修した成果だと思われる。</li> <li>・近年、就職率は良好といえる。これは学生のレベルアップと、キャリアサポートセンターと教職員の連携による関連企業への働き掛けと、弛まぬ情報交換の賜物といえる。</li> <li>・就職率が高いという事が成果として出ている事だと思います。キャリアサポートセンターと連携して業界に素晴らしい人材を送り出し、高評価を得ていると思います。</li> <li>・資格取得について様々な形で取得を促す工夫を重ねていることが推察できるが、資格取得と就職率の相関関係についても興味がある。貴学が資格取得を促す一番の目的は就職に優位になることであり、「資格マニア」を生むことではないはずなので気になる点である。</li> <li>・企業説明会開催、パーソナルシステム活用、キャリアサポートセンターと就職担当との連携によるサポート、個人面談と、多方面から学生をサポートし就職へと導いている。就職率が目標を上回る実績であるという事が、その成果の顕れであると思う。</li> <li>・まず、就職率の達成は素晴らしい結果である。関連業界に通用する資格取得対策や、卒業生からの情報収集など在学生にとって身になる結果を導き出していると感じた。</li> <li>・学修成果を押し量る目標として就職率を掲げている。対希望者に対する目標率 90%に対し 95%を超える実績であり昨年比 2%以上の向上は、あらゆる取り組みの成果が生み出したものと考えられる。対在籍者の目標率 80%以上に対し昨年同様の比率となっている点については在籍者の意識がやや頭打ちなのかと思わせる部分もあるが卒業後の各方面からの評判も良く全体では高評価だと感じる。</li> </ul>	<h1>4</h1>



## 基準 5 学生支援

コメント	評定
<p>・クラスアドバイザー制度、学生相談からキャリアサポートセンターまで手厚く学生支援されていることと思う。卒業に対しても TOHO 会の存在がある。人のつながりが大事な業界にあって、このような支援は大切である。</p> <p>・学生へのサポート体制は年々向上しているように見える。これは社会通念に牽引されている側面もあるが、キャリアサポートセンターとの連携が功を奏した結果でもあるように思う。また、外部の有識者や保護者、そして関連企業との連携も上手く作用した結果であると思う。</p> <p>・カウンセラーやクラスアドバイザーによる学生に対してのサポートは万全だと思います。時代に合わせ最新の技術・情報を提供してほしいと思います。</p> <p>・就職支援についてはパーソナルデータシステムを上手に活用することによって、個々にあった就職先を提供する努力が感じられた。中途退学への対応についてはコロナ禍で目的を見失う学生も多くなっていると言われるので、さらに創意工夫を重ねていく必要がある。</p> <p>・クラスアドバイザーをはじめ就職アドバイザー、経済支援、奨学金制度、相談ダイヤル 24、カウンセリングルームと サポート体制は優れていると思う。</p> <p>・就職、進路担当者を設け学生の就職活動状況の把握、就職指導の授業など学生にとっては有益なものであると思う。学業以外の相談にもカウンセラーの利用や、留学生に対する専門の担当者の支援なども良い。そこから得た情報をデータ化し保護者への共有、課題改善などに努めていることは評価したい。難しい事とは思いますが、卒業生（若手 OB）を対象に離職してしまった方々の原因を情報収集して、学生に反映するのも良いかもしれない。</p> <p>・学科ごとに就職・進路担当者を置きクラスアドバイザーと連携してパーソナルデータシステムを活用し情報共有を図るなどして学生の就職活動などを把握し支援されている。関連業界団体との連携をはかり企業説明会の開催などの取り組みも評価できる。近年、メンタル面のサポートが重要となっているが、カウンセラーの配備や相談窓口の設置もある。留学生への配慮も行われており生活面での支援の他、精神面での支援体制について今後もできるだけ拡充していくことを望みます。</p>	<h1>3</h1>

## 基準 6 教育環境

コメント	評価
<p>・必要にして十分な環境は整えられていると思う。高額機材やスタジオなどはそう簡単に替えることはできないが、学校で学ぶべきものは基本であって先端事項ではない。</p> <p>・学生が快適に学べ、関連業界や一般社会で生き抜いていける知識や能力が身に着けられる施設や設備環境の充実と安全管理の整備に努めている。</p> <p>・最新の機材等を導入し授業を行っていると思います。スペース的には十分とは言えないが整っていると思います。</p> <p>・高校では4月のコロナ禍でオンライン授業に切り替えたが、オンライン授業の是非はともかく、今後、対面でもオンラインでも対応できるような環境整備はハード面はもちろんのこと教える側のスキルアップも欠かせないと感じさせられた。</p> <p>・専門設備は整っていると思うが、食堂であったり、スポーツを行う施設、自習室などがあると良いと思う。</p> <p>・施設・設備の更新などご苦労があると思うが、今後、VTRなどの減少から映像・音響系のファイル化が進むことを計画的に設備の更新が必要になる。インターンシップは継続してもらいたい。防災に関しては災害対策委員会の設置もあり、課題も理解されているので、今後の対応を願う所である。</p> <p>・学生のニーズや社会環境に合わせた教室の改善などは必要かと思う。専門技術者育成の為に専門性の高い実習機材については、想像を超える目覚ましいテクノロジーの発展により教育と情報のバランスがとりにくい状況にあると感じる。最新機器や業界ニーズの高い機器の導入に向けて購入による設備改修や設備更新よりもリースによる最新機器の導入など職業実践教育に必要なインフラの整備方法について検討いただければと思います。地震対策マニュアルを見直し災害対策マニュアルの策定をしたことは評価できる。</p>	<h1>3</h1>

## 基準 7 学生の募集と受入れ

コメント	評定
<p>・海外からも含め、国内全国からの入学者があり、そのことは貴校の知名度を示している。コロナ禍の影響は否定できないが、これは世界的な問題であり、解決までは時間を要するだろう。</p> <p>・多様化する学生たちの意識変化にも対応した募集活動に努め、少子化や競合校対策にも力を注いでおり、加速度的に移り変わるニーズに合わせた対応策を模索しながら行動している。</p> <p>・体験入学や学校説明会など数多く行い、多くの学生が入学していると思います。ただこのコロナ禍において海外からの留学生はかなり減少すると思われる。</p> <p>・入学後のミスマッチを防ぐために体験入学を実施している点は評価できる。また入学辞退者に対する授業料返納についても 3 月 31 日まで対応するということが大変柔軟な対応がとれていると考える。</p> <p>・高等学校・日本語学校の校内ガイダンスの参加、オープンキャンパスの実施と、取り組んでいる中に安定した学生獲得が出来ていると思う。また、保護者向けや高等学校教員向けの資料を作成し、対象に合わせた情報提供を行ったり、最近の学生の傾向である SNS 情報への募集にも力を入れている事も評価できる。</p> <p>・入学希望者に向けた関連業界の動向、卒業生の活躍の紹介など、学生にとって自分の将来像をイメージしやすい環境を構築されていると思う。基準 5 でも記したが、良い事ばかりではなく、就職したが辞めてしまった方々の原因の収集を行い、リスク例として説明する事も良いかと思います。(情報収集が難しいと思いますが)</p> <p>・体験入学・オープンキャンパスなどで実際に足を運んで設備などを体験いただくような機会があり、入学後のギャップを減らすイベントについては評価できる。高等学校等における進学説明会への参加など国内の募集活動は可能な限り積極的に行われており高く評価できる。台湾に事務所を設け韓国をはじめ中国や台湾のほかアジア圏にを中心として留学生の受け入れなど海外における活動も高く評価できる。放送関連の専門学校として他国にない特徴を生かし今後も積極的に展開していただきたい。</p>	<p>4</p>

## 基準 8 財務

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務情報も HP 上で公開されており、問題はないと思われる。拡大化は避けるべきだろうが、現状は維持できるのではないかと。助成金などを獲得できればよいだろう。</li> <li>・入学者の確保が財務の安定に直接繋がることから、学園全体（各部署）の連携によって、収支予算から実績まで、バランスよく維持されている。</li> <li>・財務状況に関しては本部と連携して問題なく遂行されていると思います。</li> <li>・高校の現場に身を置く者からすると、財務管理について職員で共有されているのは素晴らしいことだと思う。つつい教員は財務のことを考えずに理想論を振りかざす傾向があるが、無い袖は振れぬ訳で、大いに参考にさせていただきたいと感じた。</li> <li>・財務、収支バランスは安定していると思う。HP にも公開されていて、問題ないと思う。</li> <li>・各年度の入学者数によって、収入が変動するが、その変動に合わせた支出計画とされていると思います。経理関係者の教育にも対応しており問題は感じません。</li> <li>・少子化のおり学生の確保が財政基盤の基本となるが、関係者の努力によって一定数の定員を確保しながらも施設や設備の改善など支出も適切であり収支のバランスは安定しているようである。今後も継続していかれることを望みます。</li> </ul>	<h1>4</h1>

## 基準 9 法令等の遵守

コメント	評定
<p>・この評価委員会も含め、対外的にも法令は充分遵守されていると思う。生徒を扱う教員は、特にハラスメントには充分気をつけるべきである。</p> <p>・学園運営の適正化を図るべく法令や設置基準等の遵守をはじめ、個人情報の保護に努めながら、関係各所からの情報にも耳を傾け、学生、保護者、関連業界からの信頼を得るべく努めている。</p> <p>・遵守はきちんとしていると思います。個人情報の管理やハラスメント問題に十分徹底してほしいと思います。</p> <p>・貴学の特性上、個人情報の管理を徹底されている点は評価できる。また、万が一漏洩した際にもその善後策を考えられているということだが、より具体的な対処法をさらに検討していく必要があるかと思います。</p> <p>・個人情報の保護に関する規定を定め、教員・学生に対して啓発活動を実施したり、ハラスメント防止について職員・学生にホームページや学生ガイドに掲載して周知し、相談窓口や相談ポストを設置するなど、法令等の遵守に取り組んでいると思う。</p> <p>・関係法令、設置基準の遵守、個人情報保護など適性の学校運営をされている。学校としてのコンプライアンスを確立し、学生たちが社会人となった後にも通用する教育を望みます。</p> <p>・学生の安易な SNS 発信が大きな社会問題となるような事案も増えつつあります。セクハラやパワハラといったハラスメントは、既に一般教育の範疇ととらえておいた方が良いと思います。社会的マイノリティを尊重できる人間形成や考え方を指導し社会性を学ぶ必要があると感じます。安易な SNS 発信で間違った情報を拡散しないことや『人権』について正しく考える機会があると法令順守の機運が上がるかもしれません。個人情報の取扱いに十分配慮いただきながら学校としても危機感を持って対応して欲しいと感じています。</p>	<h1>3</h1>

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

コメント	評価
<p>・地域交流、ボランティア活動などを積極的に行っていることは、高く評価できる。教育機関としてはオプションかもしれないが、他分野の人々と交流する機会は貴重である。</p> <p>・近隣地域への清掃やリサイクル活動などで貢献しているが、今後は更に幅を広げるべく行動に期待したい。また、授業の一環としてのボランティア活動にも、より一層力を注いでほしい。</p> <p>・機材の貸し出しを行ったり近隣との交流を行ったりして貢献していると思います。これからも学生たちに積極的に参加してもらいたいと思います。</p> <p>・ボランティア活動を授業にしているという点について、強制力とは相反する主旨のものなので、授業とすることにより様々な問題点が浮き彫りになっているようである。ただ、現実的には「授業」という形態をとることにより、学生たちに知らない世界を知らしめることが可能になるのかもしれない。</p> <p>・地域との交流（お祭り・地域の清掃など）を行ったり、学校としてボランティア団体へ登録しての活動を行ったり、「世界の子供たちへのワクチン募金」となるペットボトルキャップ回収など、地域貢献はできていると思うが、学生の自主性をもっと育ててほしいと思う。</p> <p>・ボランティア活動を授業化していることは素晴らしい事、学校周辺のごみ収集、リサイクルへの対応など、今の社会人に欠落している大切な事を指導されていると思います。それは学校の大きなイメージアップでありブランドだと思います。</p> <p>・学校が所有している設備・危機を利用したボランティア活動については一定の評価ができる。学内の取り組みだけではなく個人の活動等に対して情報収集をし可能な支援の手を差し伸べることが出来れば社会貢献はもう少し先に進むのではないかと思う。学内の設備に頼らない学生の自主性が高くなることを期待します。</p>	<h1>3</h1>

## 所感

・コロナという100年に一度の災厄にあたり「不要不急」という言葉が流布した。エンターテインメントは、このような非常時には不要との声もあろう。しかし苦難のときにこそ、人は娯楽を求めることを歴史は教えてくれる。エンターテインメント業界へ優れた人材を送り出すという忘れず、教育活動を続けてほしい。

・あらゆる面で学園としての改善や維持への努力が感じ取れる。近年の課題である少子化問題をはじめ、山積している諸問題に新型コロナウイルス問題が申し掛かってきた中でも、学園内の結束力を駆使し、乗り切るべく対応策を講じながら、業界で生き抜いて行ける人材育成に励み奮闘していることが窺えた。

・誰も想像できなかった大変な世の中になってしまいました。これからも「さすが東放学園」といわれるような人材をそだて「東放学園に行ってよかった」と思うような教育を続けていってほしいと思います。

・高校の進路指導部にはさまざまな専門学校からさまざまな形態でのご案内をいただきます。今年はコロナ禍で年内入試で進路先を早く確定したいという生徒が増えて、例年になく専門学校への進学者も増えました。専門学校は大学に比べて学費が高いケースが多いので、指定校推薦による入学で入学金が免除されるなどの措置を講じている専門学校への年内入試の人気の高まりを感じました。貴学におかれましても高校の現場の実情を的確につかみ、適切な募集方法を追求されていくことが望まれます。

・「東放学園専門学校」という老舗ブランドの専門学校らしく、どの角度から見ても信頼と安定ある学校だと思う。今後、少子化という難しい時代になると共に、2020年度からのコロナ対策も重なり、課題は山積だが、今後も教育方針である「実践教育・人間教育・自立教育」を推進し、社会で活躍できる人を育成していただきたい。

・全体として御校の取り組みはしっかりと課題を理解した対応に感じます。教育環境の項で触れたが、映像・音響業界はVTRなどの機器を扱うものから、PCをベースにしたソフトウェア化、ファイル化が急速に進んでいきます。更に昨今の若い方々はタブレットやスマホ世代でPCを使用しない世代となっている事が、今後の御校の指導面に影響も出てくると思います。簡単ではありませんが、基礎の大切さと共に、時代に沿ったご指導を願うばかりです。本評価の対象が2019年度なのですが、これを記入している2020年度の現状を鑑みると、今までの在り方や考え方が大きく変わってしまった。御校が一番感じている事だと思いますが、先に触れたファイル化、ネットワーク（オンライン化）を取り組んだ改革は必須となるでしょう。特にオンラインならではのファイル化に対する授業もあると思いますので、ご検討いただきたいです。何か力になれる事があればご協力させていただきます。

・SNSや配信系番組制作が多くなり放送業界も新しい波が一気に押し寄せている状況です。これまでのように放送局や番組制作会社が巨額な予算で番組を作る時代が終わりをむかえつつあるのかもしれませんが。個人がYouTubeなどで自由に映像制作をしそれが世界中に拡散されることで多大な利益を得られる時代となり映像や映像編集を学ぶニーズは増えてくる可能性があります。これまでの実績に奢ることなく新しいメディアへの対応をしつつこれまで同様に放送業界・エンターテインメント業界を担っていく人材の育成に取り組んでいただけることを期待します。

以上